

中学校用

五月の風 — カナ

五月の風——カナ

「まだかな。ミカたち……私、場所間違えちゃったのかな。」

カナは、もうかれこれ一時間も駅前のロータリーで、ミカたち吹奏楽部のメンバーを待っていた。今日は、これから隣の楽器店へ、色々な小物を買いに行く予定だった。

「どうしたんだろう。何かあったのかな。どうしてみんな来ないんだろう。」

待ち合わせ時間から三時間以上過ぎた。カナは、漠然とした不安を抱えながら、待ち続けた。

「そんなところで、どうしたの。」

偶然、近所のおばさんが通りかかって声をかけてくれた。カナの目から涙がこぼれた。

夜、カナはミカの自宅に電話してみた。

「今日、何かあったの。どうしてみんな来なかったの。私、場所を間違えたのかなと思っただけけど。」

「えっ、あっ、待ち合わせ場所が変わったんだ。昨日の夜に、ラインで楽器店に直接集まるってことになったの。カナに伝えてなかったわけ。ごめんごめん。」

「そうなの。みんなは楽器店に行っただね……。残念だなあ、楽しみにしてたんだ。」

カナは、それ以上何も言えずに電話を切った。

カナは、お母さんに言った。

「お母さん、やっぱりスマホ買ってくれない。みんなもってるんだ。」

「まだ必要ないでしょ。高校生になるまでは我慢するって自分で決めたんじゃないの。」

「やっぱりだめなんだよ。それがないと……。」

昼間の惨めさが後から後から押し寄せてきた。カナは、自分の心に歯止めがきかなくなった。

「お母さんは私の気持ち、全然分かってくれてない。大嫌い。」

部屋で一人になって、カナは考えた。ちよつと言い過ぎたな。お母さんのせいじゃない。なんとなく、最近、みんなが私の知らないところで何か言ってるような気がしていた。学校でもラインの話ばかりだし、ついていけないなって感じてた。今日はわざと外されたのかな。そうかもしれないな。どうしよう。胸が締め付けられるような不安が押し寄せてくる。こみ上げてくる涙をこらえて、カナはじつと考えた。

冷たい空気が吸いたくなつて、ベランダに出た。穏やかな静けさに包まれて、カナの心は次第に落ち着きを取り戻していった。お母さんの言うとおり、おばあちゃんがスマホを買ってくれるつていつたとき、高校生までスマホはいらないうつて言つたのは自分だつた。貴重品だから壊したりなくしたりしたら大変そうだし、なによりスマホを持つたらずつとスマホをいじつてそう。ただでさえ時間の使い方が悪くてお母さんに怒られてはつきりいるのに。だから、高校生までは持たないつて決めたんだ。でも、友達に外されるのは、ちょっと。はあ。また、涙がこぼれそうになつた。



次の日、カナは学校へ行く途中で、前を歩くミカを見つけた。胸がドキドキしてき

た。足が前に出にくくなる。でも……昨日、ベランダに出て考えたことが頭に浮かんできた。ちゃんと伝えなくちゃ……。カナは思い切つて、後ろからミカの肩をたたいた。

「おはよう、ミカ。私、ラインできなくてごめんね。ミカには迷惑かけちゃうけど、何かあつたら、また教えてね。」

ちゃんと言えた。ミカの瞳にみるみる涙がふくらんできた。

「昨日はごめん。カナ。……」

あふれる涙も気にせず、そう言うミカを見て、カナは、心からよかったと思つた。ミカの足下に涙が二粒三粒と落ちた。

「ミカ、何泣いてるの。友達だよ、私たち。」

「うん。」

並んで歩く二人の心の中を、五月の風が吹き抜けていった。

○ カナがベランダに出て考えたことはどんなことだろうか。また、「ちゃんと伝えなくちゃ……」と思つたことは、どんなことだろうか。

○ カナの考えや行動から学ぶことはどんなことか。

7 中学校用「五月の風——カナ」 指導例

本資料「五月の風」では、友達同士の連絡（意思疎通）にソーシャルネットワークサービス（ここでは「ライン」を取り上げている）が利用されている中で、スマートフォンを持たない生徒が、友達とラインで連絡を取り合えないことから起こった出来事を取り上げている。二人の女子生徒の心の動きを描き、それぞれの側から一つの出来事をとらえて考えられるように2編を作成し、情報モラルに関する指導にも活用できるようにしている。

カナは、自分で必要がないと決めてスマートフォンを持っていなかったが、そのことで友達とのすれ違いが起こり、疎外感や不安を感じ気持ちが揺らぐ。一方、カナの友達であり、ラインで部活動の仲間と連絡を取り合うミカは、カナがスマートフォンを持っていないことを知りながら、待ち合わせ場所の変更をカナに伝えないままにしてしまったことで、自分自身を責める。カナの立場からは、自分で判断し実行することの大切さについて、ミカの立場からは、互いに信頼し合い高め合う友情の素晴らしさについて考えることができるであろう。多くの中学生にとって彼女らの姿や悩みは等身大であり、それぞれのものの見方や考え方の変容を共感をもって受けとめることができるのではないだろうか。

それぞれの道徳の内容の指導に活用できるよう作成しているが、例えば2週連続してそれぞれの資料を活用することで、より生徒の興味を喚起し、どちらの立場からも考えることを通して、自分たちの友達との関係を振り返り、見直すことにつなげることもできるのではないかな。今後の情報機器との付き合い方を考えるきっかけの一つともしたい。

- ◆ **主題名** 自分を貫く 指導内容 1－(3)
資料名 五月の風——カナ （奈良県教育委員会）

◆ ねらい

自分で決めてスマートフォンを持たないでいたが、ラインがもとになり、友達とのすれ違いが起こり疎外感や不安を感じて気持ちが揺らぐ主人公について話し合い、主人公の自分の考えを貫こうとする決意から、自分で判断し実行することや、そのことで自分自身に対する責任を果たすことの大切さに気付かせ、自主的、自律的に生きようとする意欲を高める。

◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、ラインについて話し合う。	○ 「ライン」を知っているか。 ・ スマホで使うアプリでトークや通話ができる。 ・ 友達と使っている。	・ 自由に話し合わせ、資料への興味・関心を喚起する。	
展 開	2、資料「五月の風——カナ」を読んで話し合う。	○ カナが3時間以上も待ち続けたのはなぜだろうか。 ・ もう少し待ったら来るだろうとずっと期待していた。 ・ 友達との約束を信じている。 ・ 仲間から外されているのかもし	・ 同様の経験があれば振り返らせ、待つときの不安感や期待感などに共感できるようにするとともに、主人公は友達とラインができないことでどこか引け目を感じ	

展		れないという不安から、そのまま帰れなかった。 ○ ミカとの電話を切った後、カナが母にぶつけたのはどんな思いだっただろうか。 ・自分が疎外されたという不安や悲しさ。 ・スマホを持っていないせいだという悔しさ。 ・買ってくれないからこうなったという責任転嫁。	ていることも押さえるようにする。 ・部のメンバーのラインによる情報伝達の輪に入れない疎外感や不安をおさえ、それらを母のせいにし、八つ当たりしてしまった主人公の思いに共感できるようにする。	
開	3、自分を振り返る。	◎ カナがベランダに出て考えたことはどんなことだろうか。また、「ちゃんと伝えなくちゃ…」と思ったこととは、どんなことだろうか。 ・スマホは高校生になるまで持たないと自分で決めたことは間違っていない。 ・ラインの話題に入れないことで友達から疎外されるのは嫌だ。 ・ラインはできないがこれからも友達として付き合ってほしい。 ・ミカとはずっと仲よくしたい。 ○ カナの考えや行動から学ぶことはあるか。 ・悩んでも、最後は友達を信じて自分の思いを伝えた強さ。 ・自分でよく考えて決め、そのことをやり通す大切さ。 ・他者に自分を合わせることなく、他者とうまく付き合うことの難しさ。	・自分で決めたスマートフォンを持たないことと友達との付き合いの間に気持ちが揺れる主人公に共感させ、その上で、自分が決めたことを曲げることなく、友達にきちんと自分の気持ちを伝えようとする決意をとらえられるようにする。 ・ワークシートに書き込むことを通してじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。	ワークシート
終末	4、「私たちの道徳 中学校」を開き、読んだり書き込んだりする。	○ 「私たちの道徳」24、25ページを開きましょう。	・「私たちの道徳」を活用したり、指導者の体験を話したりして、自分で判断し実行することや、そのことで自分自身に対する責任を果たすことの大切さに気付かせ、自主的、自律的に生きようとする意欲を高めるようにする。	ワークシート 「私たちの道徳」

※「私たちの道徳 中学校」は、次のURLよりダウンロードできます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344255.htm

道徳ワークシート

名前（ ）

カナがグランドに出て考えたことはどんなことだろうか。また、「ちゃんと伝えなくちゃ……」
と思ったことは、どんなことだろうか。



カナの考えや行動から学ぶことはどんなことか。
